認知症カフェ「よりそいカフェしゃんしゃん」が
地域にもたらした影響と役割に関する考察
―2 年間の実践活動の成果と課題を振り返って

15L012 **川崎　千夏**

１．はじめに

趙ゼミでは、2016 年から「地域経営ディプロマ」の取得を目指している履修学生を対象にアクティブラーニングプログラムとして粟島浦村地域活性化プロジェクトと認知症カフェプロジェクトの実践活動を行ってきた。

粟島浦村地域活性化プロジェクトは、2014 年から敬和学園大学と粟島浦村が包括連携協定を結び、相互において教育、文化、福祉、スポーツ振興、産業振興、人材育成、まちづくりなどで連携することを合意している。このような協定を背景に趙ゼミでは粟島浦村の地域課題である少子高齢化による地域産業の衰退、人口減少や高齢化・少子化問題などの地域が抱える様々な課題に着目し、それらの解決または緩和策として地域活性化を目的とした粟島特産物の開発や粟島食文化の継承発展を目指した粟島フェアなどの実践活動を行ってきた。

一方、認知症カフェプロジェクトは、2016 年から敬和学園大学の趙ゼミ履修学生が、商店街活性化を目的として新発田市商店街にある空き家を利用し敬和学園大学の学生が主体となり営業しているカフェである「まちカフェ・りんく」を拠点に、月 1 回土曜日に「よりそいカフェ・しゃんしゃん」という認知症カフェを新発田市や地域の福祉団体と連携しながら活動してきた。現在も活動を続けており、後輩に引き継ぎをしながら今年で 3 年目を迎えた。回を重ねるごとに参加者も増え、新発田地域に根付き浸透し始めている。

本研究は、上記の活動を総括する目的で地域学研究としてまとめるものであり、二つの実践活動のうちの認知症カフェプロジェクトに焦点を置き 2 年間の実践活動を通して「よりそいカフェ・しゃんしゃん」が地域にもたらした影響と役割を明らかにする。

本研究の構成としては、認知症の説明と認知症カフェの趣旨・目的を定義し全国で認知症カフェが普及していく背景を述べた後、新発田市内における認知症対策の取り組み内容や新発田市内に展開している 10 箇所の認知症カフェの実態調査でのインタビューを基にしてその結果について整理する。そして、最後に 2 年間の実践活動を既存資料や地域の福

祉団体・参加者・学生へのインタビューを基にして振り返り、成果と課題を整理して全体を通して明らかになった結論から「よりそいカフェ・しゃんしゃん」が地域にもたらした影響ないしは地域に果たしてきた役割を導き出し述べる。

第１章

１．認知症とは―全国で広がる認知症カフェ

⑴認知症とは

認知症とは、脳の神経細胞が壊されて脳の働きが低下し、判断や思考、会話に障害が現れる病気である。2015 年 1 月の厚生労働省の発表によると、2012 年時点で日本の認知症患者数は約 462 万人と推測されている。つまり、65 歳以上の高齢者の約 7 人に 1 人の割合で発症しているのだ。認知症は、老化に伴う物忘れとは全く違う。物忘れは、脳の老化であり判断力は低下せず忘れたことの自覚もあり体験したことの一部分を忘れるだけで日常生活に大きな支障はきたさない。しかし、一方で認知症は脳の神経細胞が変性、脱落し壊されることによって発症する脳の病気であり、判断力は低下し忘れたことの自覚もなく体験したことをまるごと忘れてしまう為、症状が進行すればするほど物事を理解する力や判断する力がなくなり社会生活や日常生活に大きな支障をきたす。

少子高齢化が急速に進んでいる現代、認知症の前段階とされる「軽度認知障害（MCI）」や「若年性認知症」など若い人にも発症するケースもあり、認知症の半数を占める「アルツハイマー型認知症（大脳皮質全体が委縮し判断能力の低下が早い状態）」「レビー小型認知症（レビー小体という神経細胞に出来る特殊なたんぱく質の増加によって神経伝達が障害される状態）」「血管性認知症（脳梗塞や脳出血などの脳血管障害が原因で発症し部分的に脳が損傷している状態）」も増えており、年齢問わず認知症の患者数が更に膨らんでいくことは確実で、私たちの身近な社会問題になることは間違いないだろう。

⑵認知症カフェの普及

このような状況の中で、1997年9月15日にオランダで始まった「アルツハイマーカフェ」が先駆けとなり、オランダの認知症カフェをモデルとして、その後イギリスやアメリカなどでも広がっていった。認知症の人とその家族、地域住民、専門職などの誰もが参加することができ、交流・相談・情報交換をする場所として「認知症カフェ」が開設され始めた。認知症カフェは、認知症の症状によって引き起こされる様々な言動から人間関係が希薄になり、孤立しがちな認知症患者と、日々の介護で心身共に疲れを覚え、ストレスや介護の悩みを抱える家族を支援する取り組みとして、地域で大きな役割を果たしている。

本学のように学生が主体となって運営している所や、市などの行政や地域の福祉団体・

福祉施設、あるいは個人で運営している所もあり主催者は様々である。また、各カフェで内容が異なっており、認知症についての知識を学ぶ講義形式のカフェやイベントが盛んで交流をメインとするカフェなどそれぞれが独自の特色を生かして週 1 回～月 1 回程度、1 回あたり 2～5 時間程度で開催している。

日本では、2012 年に厚生労働省が、日本が認知症対策として取り組む“オレンジプラン”と呼ばれる総合戦略を策定して、「認知症の人やその家族等に対する支援として、認知症カフェの普及などにより、認知症の人やその家族への支援を推進する」と目標を立てた。[1)] その後“オレンジプラン”が策定された 3 年後の 2015 年には、“新オレンジプラン”が策定され「認知症の人が住み慣れた地域の良い環境で自分らしく暮らし続けるために必要としていることに的確に応えていく」と目標が立てられ、国が認知症カフェを認知症施策の 1 つとして位置づけ公表したことによって日本における認知症カフェの設置・開設は更に普及していくこととなった。[2)]

2014 年の厚生労働省の発表によると、認知症カフェは日本全国 41 都道府県 280 市町村に 655 か所設置されており、数字で分かる通り日本全国で大きく広がりを見せている。

２．新発田市における認知症対策の取り組みー地域で広がる認知症カフェ

⑴新発田市における認知症対策の取り組み

新発田市は、新潟県の北部に位置する人口約 10 万人の中核都市である。江戸時代に新発田藩の城下町として栄えた歴史があり、その名残で国の重要文化財に指定されている新発田城や足軽長屋などの歴史的建造物や清水園･市島邸といった日本庭園･旧豪農の屋敷、諏訪神社、寺町通りがあるなど昔の面影を残す歴史情緒が溢れる場所である。

ここ数年で、市立図書館は、新発田駅前に移設し複合施設として子育て支援や若者の居場所づくりなどの地域のコミュニティーを繋げる場に変わった。また、市役所も新発田市商店街に移設・改築され、地域住民の休憩所や子どもたちが遊べるキッズスペースなど施設内も充実しており、市の施設は以前に比べて子ども・若者などの利用者層が増え賑わいを見せ始めている。

しかし、一方で新発田市の中心部にあり市役所も点在している新発田市商店街は、相次ぐ大型ショッピングモールの建設や急速する高齢化によって担い手不足となりシャッター街と化して衰退の一途をたどっている。

2015 年の国勢調査によると、新発田市の高齢者人口は約 3 万人で高齢化率は約 30%であり年々その数は増え続けている。全国的に見ても、高齢者の 4 人に 1 人が認知症もしくはその予備軍といわれていて、7 年後の 2025 年には、認知症患者数が約 700 万人まで増

えるといわれており、介護をする家族への負担や認知症高齢者の徘徊による死亡事故などは後を絶たず大きな社会問題となっているのである。

新発田市でも 2～3 年の間に立て続けに徘徊が理由で認知症高齢者が行方不明となり、遺体となって見つかった事案も発生している。この出来事を契機に新発田市は、認知症によって引き起こされる様々な社会問題を一行政として、真剣に取り組む必要性があると考え、認知症についての知識・認識の普及や啓発の為に、地域住民・福祉施設・社会福祉協議会などの関係機関と連携をし、地域全体で認知症高齢者とその家族を見守り支援する仕組み作りに力を入れて取り組み始めていった。

取り組み事例として、2009 年から「認知症サポーター養成講座」と呼ばれる講座が開かれた。この講座は、認知症についての正しい知識を学び参加者一人ひとりの認知症に対する意識を高め、認知症高齢者を地域ぐるみで見守るサポーターを養成することを目的としている。講座を受ける事で、認知症サポーターとして認められる仕組みになっておりその証としてオレンジ色の認知症サポーターリングが贈呈される。全国的に見ても認知症サポーターの養成は進んでおり、現在 880 万人いる。国は、2020 年までに 1,200 万人の達成を目標としている。その後、認知症がマスコミに大きく取り上げられるなどして、講座開設とともに地域住民の認知症に対する関心は高まり、身近な社会問題として認識され始めるようになった。本学でも、「認知症サポーター養成講座」が新発田南地域包括支援センターと敬和学園大学が共催で学生と地域住民を対象に 2016 年 12 月 5 日（月）と 2018 年 10 月 12 日（金）に 2 回開催された。出席者は、趙ゼミ履修学生や他学科の他ゼミ生もおり、認知症を知る機会ないしは「よりそいカフェ・しゃんしゃん」を企画・運営する上で一人ひとりが認知症についての正しい理解を持ち地域で実践していく為の貴重な学びの時間となっている。

また、新発田市における認知症カフェの始まりは、2015 年 12 月に「新発田市認知症カフェ実行委員会（事務局：新発田市高齢福祉課介護指導係）」が主催した「よ♥らっしぇ」である。12 月の開催までに半年以上の時間を掛けて会議を繰り返し行い、カフェの目的や内容、必要な物品や役割分担など細かな所まで話し合いを重ね、新発田市で初めての認知症カフェ設立に向けて準備を進めた。「よ♥らっしぇ」は、地域住民、地域ボランティア、福祉関係機関（介護支援専門員・介護サービス事業所・新発田市社会福祉協議会・地域包括支援センター・認知症地域支援推進員）など、多くの地域住民、専門職が共同して開催している。それにより、地域のネットワークが広がり交流を深めることが出来たことで、連携強化に繋がり、地域で認知症患者を見守る体制は着実に整っていった。その後、2015 年 12 月から始まった「よ♥らっしぇ」の開設を皮切りに、「よ♥らっしぇ」をモデルとして新発田市では2018年度現在合わせて10か所の認知症カフェが設置されており、今年に入っ

て新たに 2 か所の認知症カフェも設立され、新発田地域での認知症カフェも広がりを見せている。

⑵新発田市の認知症カフェ―認知症カフェ案内冊子の作成

趙ゼミでは、今後の新発田市における認知症カフェの発展に貢献したいという思いで、新発田市にある 7 か所の認知症カフェに行き、それぞれのカフェが持つ特徴や運営方法等について調査をして新発田市にある認知症カフェの情報をまとめた案内冊子を作成した。これから、実際にカフェに伺い参加者や担当の方へのインタビューで得た各認知症カフェの情報や特徴を紹介していく。

①オレンジカフェ「よ♥らっしぇ」 ～新発田市初！認知症カフェ～

新発田市で初めて開設された認知症カフェで、「よ♥らっしぇ」をモデルとして多くの認知症カフェが新発田市に広がる。新発田市の認知症カフェの先駆け！2015 年にオープンして今年で 3 年目を迎える。

楽しいイベントはもちろん、相談コーナーも設置しており相談内容に合わせて専門職のスタッフに気軽に相談出来る。

開催日時：月 1 回 13：00～15：30
場所：生涯学習センター 多目的ホール（〒957-0053 新発田市中央町 5-8-47）
参加費：100 円（飲み物・お菓子代）
お問い合わせ：新発田市高齢福祉課 地域ケア推進係 TEL：0254-28-9200

②「まなびや」～認知症について学ぶ講義形式のカフェ～

医師・管理栄養士・介護職員など福祉を専門として働いている方々が、交代で認知症の予防法や治療法など認知症に関する様々なテーマでお話しをされている。アットホームな雰囲気の中で、専門家や参加者と認知症の相談・交流会が行われており、認知症の知識を深く“学べる”認知症カフェである。

開催日時：毎月第 4 週金曜日 14：00～
場所：社会福祉法人ゆうしん特別養護老人ホーム くるま乃地域交流スペース
（〒957-0347 新発田市大友 17-1）
参加費：100 円（コーヒー・お菓子代）
お問い合わせ：特別養護老人ホーム くるま乃
TEL：0254-28-7382

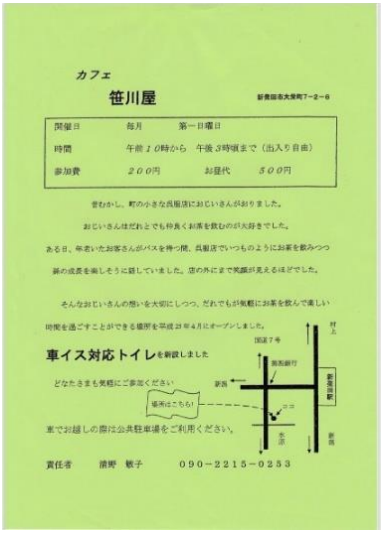
③地域カフェ「よらいす」～地域との繋がりを求めて～

地域の人との関わりを求めて開設した認知症カフェ。
頭の体操の為に、歌を歌ったり漢字のゲームをしたりイベント企画によって参加者同士の交流が生まれている。多くの地域の方々に来ていただきたいという主催者の想いから参加費は無料でお茶をお菓子などもいただくことが出来る。

開催日時：毎月第 4 木曜日 13：30～15：00
場所：グループホーム加治川の里
（〒959-2426 新発田市向中条 2843-1）
参加費：無料
お問い合わせ：グループホーム 加治川の里
TEL：0254-21-3470

④カフェ「笹川屋」

～手作り料理が味わえる！主催者の温かい思いが詰まったカフェ～



元ケアマネージャーの方が運営している認知症カフェ。現役時代の経験や知識を活かしながら、地域ぐるみで認知症の方を見守っている。

参加費 200 円と合わせて 700 円を支払う事で、手作りの美味しい料理をいただくことが出来る。学生が調査に行った際には、「豚肉とゆで卵の煮込み・漬物」など手の込んだメニューで心も身体も芯から温かくなった。

開催日時：毎月第 1 日曜日 10：00～15：00
場所：〒957-0056 新発田市大栄町 7-2-6
参加費：200 円（お昼代 500 円）
お問い合わせ：清野 敬子さん TEL：090-2215-0253

⑤「プチ・オレンジカフェ」～参加者みんなで作る！一人ひとりの持ち味が活かされるカフェ～

イベント内容は、スタッフと参加者が一緒に考えて企画している。学生が調査に行った際には、認知症予防講座や頭の体操として折り紙で箱を作ったりと、イベント内容は多種多様であった。1 つの円になってスタッフ・参加者同士が向かい合って会話をする事が出来るので初めての人でも打ち解けやすく、参加者一人ひとりの持ち味が活かされる参加型のアットホームな認知症カフェ。

開催日時：毎月 1 回 不定期 13：30～15：15
場所：新発田市総合健康福祉センター いきいき館
いきいき館 1 階「市民ふれあい広場」
（〒957-0052 新発田市大手町 1-14-13）
参加費：100 円（飲み物・お菓子代）
お問い合わせ：新発田中央地域包括支援センター
TEL：0254-26-2400

⑥「ぽかぽか cafe とようら」～施設利用者・ご家族も気軽に集える！福祉施設運営のカフェ～

社会福祉法人愛宕福祉会が主体となり運営しており、「特別養護老人ホーム豊浦愛宕の園」を会場に開催している。
施設利用者の方やそのご家族も気軽に集うことが出来ていて楽しい交わりの時となっている。

また、イベントの種類が豊富で「都道府県ビンゴ」「○×クイズ」などのゲームや「コースター作り」「どらやき作り」などの工作・調理など多種多様である。職員の方によるハンドマッサージもありイベントや参加者同士の交流で楽しみながら癒され心身共に休める場所である。

開催日時：毎月第 3 日曜日 14：00～16：00
場所：特別養護老人ホーム豊浦愛宕の園　（〒959-2311 新発田市荒町甲 1611-13）
　　または、サービス付き高齢者向けヴェルメ豊浦（〒959-2311 新発田市荒町甲 1611-51）
参加費：200 円
お問い合わせ：特別養護老人ホーム豊浦愛宕の園 TEL：0254-20-2211

⑦「ぢりめきカフェ」～外部から講師をお呼びして楽しいイベントを開催！福祉施設運営の認知症カフェ～

ショートステイぢりめき（高齢者福祉施設）が運営している認知症カフェ。施設利用者の方やご近所の方などが気軽に集まる。外部からお呼びした「大学生の落語研究会」主催の落語イベントやクリスマス会では「マジックショーのボランティア」主催のマジックショーやバルーンアートなどイベントを楽しみながら参加者同士の会話も弾む。

開催日時：月 1 回（第 3 日曜日もしくは第 4 日曜日）
場所：山の口公会堂（〒957-0082 新発田市佐々木 2610）
参加費：無料
お問い合わせ：グループホーム地利目木
　　TEL：0254-32-6100

⑧「みんなの茶の間」

～古民家カフェでくつろぎの時間をお過ごしください～

開催日時：毎月第 4 月曜日 14：00～15：30

場所：カフェコヘル（新発田市敦賀 424-1）

参加費：無料（飲み物・お菓子セット 500 円用意）

お問い合わせ：新発田東地域包括支援センター

TEL：0254-31-2001

⑨「カフェ 二王子(にのおじ)」

開催日時：不定期

場所： 介護老人保健施設二王子施設内（新発田市虎丸 452）

参加費：100 円

お問い合わせ：TEL：0254-25-3737 担当：佐藤

＜新発田市認知症カフェ案内冊子の作成＞

このようにして私たちは、新発田市にある認知症カフェ 7 か所を回り実際にカフェの開催日に伺い、参加者や担当者の方々にインタビューをしてそれぞれの認知症カフェの特徴を調査してきた。その後、新発田の地域住民の方々に、より認知症カフェの存在を知っていただき身近なものとして気軽に足を運んでもらうことを目的として新発田市にある認知症カフェの情報をまとめた「新発田市認知症カフェ案内冊子」を作成した。構成からデザインまで全て趙ゼミの学生が作成をして、地域住民の方々に手に取ってもらいやすいように用紙のサイズや折り方を工夫をして、修正を繰り返しながら時間を掛けて作成した。この完成した案内冊子は、新発田市にある福祉施設や市の公共施設などに配布して、多くの地域住民の方に読んでいただき、認知症カフェの存在を知っていただき認知症について関心を持つ 1 つのきっかけとなって欲しい。また、今後も新しい認知症カフェがオープンしたらその都度内容を更新して発行を続けたいと考えている（別紙 1 参照）。

第２章

１．よりそいカフェしゃんしゃん―2 年間の実践活動から見えた成果と課題

⑴よりそいカフェしゃんしゃんの始まり

敬和学園大学でも、「若い世代に認知症について知ってもらいたい。地域との繋がりをつくりたい。」という思いがきっかけとなり、新発田市役所高齢福祉課と敬和学園大学・共生社会学科教授の趙先生の指導の下で、学生が中心となり「皆んなでめでたく手を打ち、元気に活動する。」という意味を込めて、「よりそいカフェしゃんしゃん（以下しゃんしゃん）」と名付けた認知症カフェが始まった。2016 年 3 月から「しゃんしゃん」実行委員会を設立し、敬和学園大学の趙ゼミ生、新発田地域南包括支援センター、認知症ケア専門士、作業療法士、ボランティアなど様々な立場で働かれている方々と連携しながら、カフェのイベント内容、飲食メニュー、空間作りの飾りつけ、広報（チラシ作り、告知方法決め）などを検討会議で話し合い、開催に向けて準備を進めてきた。

「しゃんしゃん」は、9 年前から新発田駅前の商店街にある空き家を利用して敬和学園大学の学生が経営している「まちカフェ・りんく」と呼ばれるカフェ（喫茶店）で、趙ゼミの学生が主体となり毎月 1 回の頻度で土曜日に開催している。これまで、30 回（2019 年 1 月現在）開催しており回を重ねるごとに参加者が増え、学生、地域住民、専門職の方々が交流する場として地域に根付き始めている。

⑵しゃんしゃんの準備から開催日に至るまでの活動内容

私も趙ゼミ生として、2 年間しゃんしゃんの企画・運営に取り組んできた。これから、これまでの活動を既存資料を基にして振り返り、2 年間の実践活動から見えてきた成果と課題を明らかにする。

しゃんしゃんを運営するにあたり、役割分担を準備期間と開催日の 2 つに分けている。準備期間の役割は、リーダー・副リーダー・イベント係・調理係・空間演出係・フライヤー係（チラシ・メニュー表の作成）の 6 つに分担されている。また、開催日の役割は、リーダー・副リーダー・イベント係・調理係・ホール（接客）・会計の 6 つに分担されている。

趙ゼミの履修学生は 22 人いる為、11 人ずつの A グループと B グループに分けて、その中でゼミの時間を使い会議を開き、リーダーと副リーダーの進行の下でテーマ決めや準備期間と開催日の役割分担を決めている。その会議の話し合いが全て決まり次第、係ごとに分かれて、その中でリーダー・副リーダーを決め、当日に向けて準備を進めていく。これから、各係の活動内容とその中で私が関わった主に 4 つの係に焦点を当てて見ていく。

まず初めに、準備期間の役割の活動内容について見ていく。リーダー・副リーダーは、共同で行っている新発田南包括支援センターの方への連絡や各係が順調に準備を進められ

ているか確認をしたり、当日の準備から片付けまでの時間設定などを決め一人ひとりが自分の役割を理解しスムーズに動けるように、細かい所まで目を配って全体をまとめている。また、リーダー・副リーダーの役割が一部の学生に集中し負担がかかり問題となった事を契機に、学生全員が平等に経験することが出来るようにと名簿順で決めることとなった。

イベント係は、認知症予防や進行を遅らせることを目的として、頭を使った体操が出来るイベントを企画している。これまで、旗揚げゲーム・福笑い・神経衰弱・曲当てゲーム（イントロドン）・ふるさとの手話など様々なイベントを行ってきた。これら以外にも、学生によるギター演奏、歌の披露や参加者の方によるハーモニカの披露、撮影した写真の紹介など、それぞれの趣味や特技を披露する場所としても活用されている。

調理係は、参加者の方々に提供するお菓子やドリンクなどの喫茶メニューを考えている。実際に、まちカフェ・りんくの厨房を利用して学生が手作りしている。これまで、ゼリー・パウンドケーキ・シフォンケーキ・プリン・クッキーなど、参加者の方々が会話やイベントを楽しみながらほっと休める時間をもつ事が出来るようなメニュー作りを心掛けている。

空間演出係は、しゃんしゃんの場を明るくし楽しい雰囲気を作る事を目的としている。これまで、お正月・バレンタインデー・子どもの日・クリスマスなど季節のイベントに合わせて飾りつけを決めてきた。折り紙・フラワーペーパー・色画用紙・風船などの材料を使って手作りする事もあれば、100 円ショップで販売している既製品を使う事もあったりと学生がアイデアを出し合い工夫を凝らしている。

フライヤー係は、しゃんしゃんを地域住民の方々に広く知っていただき参加者や興味・関心を持ってくださる人を増やすことを目的として、チラシとメニュー表を作成している。デザインは、担当学生の個性が出ておりパソコンで作る人もいれば手書きで作る人もいて様々である。作成したチラシは、新発田南地域包括支援センターの担当者に確認していただき修正を繰り返しながら、完成次第、各福祉施設や公共施設に配布したり、回覧板に挟んで回したりと 1 人でも多くの方にしゃんしゃんの存在を知っていただき足を運んでもらえるように努力している。

次に、当日の役割の活動内容について見ていく。リーダー・副リーダーとイベント係、調理係の役割は準備期間と同様である。違う点は、ホールと会計の 2 つが追加された事である。ホールは、主に接客がメインでオーダーを取り注文内容を調理とホールのドリンク担当に伝えて、用意が出来次第参加者の方のテーブルにお届けしている。会計は、ホールの仕事を手伝いながら参加者の方が帰られる時にお菓子やドリンクを注文された方のお会計をする。それから閉店後、出資金額と売り上げ金額を計算して最終的な売り上げを出して報告している。

(3)2 年間の実践活動で見えた成果と課題

このようにしゃんしゃんは、それぞれの学生が役割を持ちその中で学生同士が協力し合いながら準備を進めきた。私は、これまでリーダー・調理係・空間演出係・フライヤー係を担当した。その中で成果と感じたことは、2 つある。1 つ目はしゃんしゃんが学生それぞれの持つ個性・持ち味を活かせる場となっていることである。例えば、イベントで歌やギターなどの特技を披露したり、調理で料理が好きな人がメニューを考察したり、デザインを考えたり物を作る事が好きな人が空間演出を考えたりチラシを作成したりと、学生が自由に想像力を働かせながらそれらを形にして地域に発信する事が出来ることは、創造性と独自性を豊かにすることに繋がっている。実際、私は新しい自分を発見したりと、自分の可能性が広がった。

2 つ目は、地域との繋がりが生まれしゃんしゃんが地域住民の方々にとっての生きがいづくり・居場所となっていることである。冒頭でも述べた通り、新発田市は少子高齢化が進みシャッター商店街が増え地域の人たちが気軽に集える場が減った。このことで高齢者の孤立化が危ぶまれている。そのような中で、しゃんしゃんの存在により、地域住民同士、学生、専門職の方々が顔見知りになり地域の繋がりが生まれた。そのことにより、お互いの事を気にかけて見守り合える体制が構築された。また、参加者の方々が自身の若い頃の経験談を話したり、特技や趣味を披露出来る場としても用いられてそれぞれの生きがいづくりに繋がっている。

しかし、その一方で常連の参加者の方が多く新規の参加者が来られないことが課題とされているが、常連の参加者が多い事は長期的な目で見ると一人ひとりの高齢者の小さな変化に気づき、素早く支援の手を差し伸べる事が出来る。認知症カフェは、一般的なカフェのように利益・効率さを求める場ではなく、認知症の人やそのご家族その他どなたでも集える所として開かれている場である。したがって、常連になる事で一時的な関係ではなく長期的に見守り支援出来る関係へと変化し、それらが認知症カフェの役割を大きく果たしているといえる。次に、課題と感じている事は認知症の方やそのご家族が少ない事である。参加者は高齢者の方が多いが、同じ席に座った人同士で皆さん楽しくお喋りをして会話をする事が出来ている。実際、認知症の方とそのご家族が来られる事もあるが、別の小上がりの部屋へ移動し専門職の方に相談したりと、すぐ参加者の輪の中に入る事が難しい。認知症は症状のレベルが違う為、賑やかな場所が苦手で入りづらいと感じてしまう方もいるかもしれない。症状のレベルに合わせて、「ゆっくりお話しする場」「わいわいイベントを楽しむ場」などその時の気分や気持ちで部屋を変える事が出来たら、より認知症の方が来やすい場を作れるのではないかと考える。

＜よりそいカフェ しゃんしゃん活動写真一覧＞

↑学生が考案した旗揚げゲームの様子

～全体写真～

↑学生の歌の披露とギター演奏の様子

～作成したチラシ～

第 6 回目開催
2017 年 1 月 21 日

第 8 回目開催
2017 年 3 月 25 日

第 11 回目開催
2017 年 6 月 24 日

～調理メニュー～

↑シフォンケーキ（ココア味・抹茶味）

↑パウンドケーキ（抹茶味・プレーン・ココア味）

↑プリン

～空間演出～

↑こどもの日をテーマにした鯉のぼりの壁面飾り

↑フラワーペーパーで制作した蝶々飾り

↑風船飾り

↑フラワーペーパーで制作したお花の飾り

↑新年をテーマにして制作した壁面飾り

第３章

１．アンケート調査結果の分析

(1)参加者の方々・専門職の方々対象のアンケート（別紙 2 アンケート用紙）

11 月 17 日（土）のしゃんしゃん開催日、参加者と専門職の方々を対象にしゃんしゃんに参加する目的や意義､その他様々な年齢層の方々との交流や学生企画のイベント･メニューを通してしゃんしゃんが自分にとってどのような場所であるか明らかにする為、アンケート調査を実施した。

当日は、21 名（男性 8 名、女性 13 名）の方にご協力をいただいた。参加者の年齢層は、20 歳代～80 歳代まで幅広く特に 60 歳代～80 歳代が大半を占めていた。その内、3 分の 1 がスタッフでその他が参加者であり、毎月参加する方がほとんどであった。

しゃんしゃんを知ったきっかけは、関係者や知人からの紹介が多く学生達が力を入れていたチラシを見て来られている方は少ない現状が分かった。これらの事からしゃんしゃんは身内の中では情報交換と認知がされているが、外部の人達には情報が行き渡っておらず

新規の参加者を増やす事には繋がっていない現状が分かった。しかし、一方で認知症の方を地域ぐるみで長期的に支援する体制はこの小規模だが深い関係を築いていく事で達成できる課題であると考える。参加者は、学生と参加者同士の交流を目的に来られる方が多く専門職の方に相談をしに来られる方は少なかった。幅広い年齢層同士の交流を通して、新たな発見や刺激をもらい皆さんの優しさ明るさに会話も弾み楽しい時間を過ごせていると感謝の気持ちを綴っている方が多かった。学生が企画している飲食メニューやイベント、飾りつけなどに関しても、学生達の一生懸命な思いが伝わり学生のアイデアが詰まった身近なもので工夫して作られている一つひとつの企画に楽しんで参加できている方がほとんどであった。

しかし､その一方でステップアップとしてイベントは認知症対策と予防を目的として行っているものなので、参加する事で得られる効果も説明出来るようになるとより良いのではないかという意見も挙げられた。

これまで、しゃんしゃんは 30 回（2019 年 1 月現在）開催されており、学生も運営に慣れてきて参加者との交流が出来る程の余裕も持ててきたことから転換期に来ているのではないだろうか。今まではカフェの運営だけで精一杯であったが、これからは学生自らが認知症カフェの在り方について考え、認知症の方が来やすい環境と認知症に効果的なイベントの企画をする必要がある。私たちは、今初心に戻り認知症カフェを開催する意義と目的を再確認することが求められているのではないかと考える。

参加者の多くは、しゃんしゃんへの参加を通して学生や専門職など地域の方々との繋がりを持ち顔見知りになれたことをとても安心され喜ばれている。人と人との交流が希薄になっている現代、このようにしてしゃんしゃんに集う事で、近隣に住むご近所同士が関わりを持ちお互いに手を取って助け合える関係が生まれた事はしゃんしゃんを開催する大きな意義である。しゃんしゃんは、参加者の方々にとって様々な世代層との交流を通して楽しく会話出来る憩いの場となっている。また、地域に住む人々を繋げて支援の輪を広げる役割も果たしている。アンケートの最後の自由項目には､「来月も来るので楽しみに待っています。」と毎月しゃんしゃんの参加を心待ちにしている参加者の声も聞かれた。しゃんしゃんは、ゆっくりではあるが着実に地域の方々に必要な認知症カフェとして受け入れられ、地域の人と人を繋ぐ役割を果たしている。

(2)趙ゼミ 2･3 年生対象のアンケート（別紙 3 アンケート用紙）

12 月 10 日（月）3 限と 12 月 13 日（木）5 限に趙ゼミの 2・3 年生を対象に、趙ゼミに入ったきっかけからしゃんしゃんの企画と運営をする中で得られた学びや課題と感じている事、しゃんしゃんが自分にとってどのような場所であるかを明らかにする為、アンケー

ト調査を実施した。当日は、2 年生 7 人（男性 4 人、女性 3 人）と 3 年生 11 人（男性 8 人、女性 3 人）の方にご協力いただいた。

趙ゼミ 2・3 年生は半数以上男性が占めており女性が少なかった。一方で、4 年生は男性 5 人女性 16 人と女性の人数が男性よりはるかに上回っており、その年度によって大きく変化する事が分かる。趙ゼミに入ったきっかけは、認知症カフェや粟島プロジェクトなどの地域での実践活動に興味・関心を持ち履修した学生が多かった。また、他にも活動を共同で行っている様々な立場の方々と知り合い人間関係の輪を広げ実践経験を積みたいという学生もいた。このことから、地域でのアクティブラーニングを通して様々な方と交流し実践的な学びを得たい学生が多いことが見て取れる。それから学生達は活動の中で、普段あまり話す機会のない地域住民や専門職の方々との交流を通して人と関わり繋がる事の楽しさやコミュニケーション力が身に付いた。また、企画と運営をする中で仲間同士や専門職の方々と連携し創り上げていく過程で、それぞれが自分の役割をこなし計画を建て責任感を持ってやり遂げる力を身に付ける事が出来た。

しかし、全て順調にはいかず時には課題に直面する事もある。例えば、準備を進める中でメンバー同士での情報共有が上手く出来ず企画が遅くなってしまったり、役割を一度決めてしまうと変えづらくなってしまうなど、それぞれの学生が自身の役割の内容を他の学生に共有し伝えることが出来ていない。一番近くで一緒に活動している存在だからこそ、連絡はこまめにすることが重要である。また、参加者のニーズが分からずどうしたら参加者を増やし地域にしゃんしゃんの存在を広めるかで悩んでいる学生も多かった。認知症カフェしゃんしゃんを開く目的や意義、学生達が向かう方向性を再確認しなければならないと感じた。一方で、資金集めの方法や認知症に関するテーマをもっと取り入れていきたいなど、学びをより深めようとする学生も見られた。

これらのアンケート結果から、しゃんしゃんは学生にとっても地域住民・専門職など幅広い年齢層が集い交流出来る場であり、学生自らも様々な方々と交流する中で、地域が抱える課題に気づき今地域で必要とされているニーズを考え大学での講義の中で得た学びを実践に移し活動する事が出来ている。また、カフェの運営方法や企画する中で自分の考えや思いを言葉にして実際に形にして地域に発信する自己表現が出来ている事は、自分自身を知り自分の可能性を広げていく為の大きな一歩であると考える。学生達は、悩み葛藤しながら地域で自分が果たせる役割を模索し、他者の為に自分何を自分が出来るのかを自問自答しながら学びを続けているのだと感じて深く関心した。

第４章

１．よりそいカフェしゃんしゃんが地域にもたらした影響と役割

ここまで、2 年間の実践活動の振り返りと参加者・専門職の方々・学生へのアンケートを分析してきた。これらの結果を通して「よりそいカフェしゃんしゃん」が地域にもたらした影響と役割は大きく分けて 2 つ明らかになった。

1 つ目は、地域に住む一人ひとりを繋ぎ交流する居場所としての役割を果たしていることである。新発田市は少子高齢化が進みご近所同士の繋がりも減ったことから、人間関係が希薄になっている。また、高齢者が増えた事で認知症患者による徘徊が引き起こす事故や孤立死など見えない危険と課題が多く潜んでおり、私達はいつもそれらと隣り合わせで生活している。そのような中で、しゃんしゃんは年齢問わず幅広い世代の人々が足を運び時間を共にしている。アンケートを実施して一番多かった回答は、参加者を含めてしゃんしゃんに関わる人達は皆イベントや会話を通して交流出来る事を何よりも喜んでいられることだ。交流する事から生まれるプラスの効果は様々ある。とりわけしゃんしゃんの中で生まれたプラス効果は、1 人 1 人を大切する手厚い支援体制が生まれた事である。しゃんしゃんは、常連の参加者が多くその面では参加者の方の先月とは違った少しの変化などに素早く気づく事が出来、長期的に 1 人 1 人を見守り支援する事に繋がっている。これは、認知症カフェを開く大きな意義となっている。

2 つ目は、しゃんしゃんが参加者の生きがいづくりと学生の学び・成長の場所となっていることだ。参加者は、イベントで自身の特技を披露したり、私達に若い頃の話や人生の教訓、趣味・特技など様々なお話しをしてくださる。皆さんの楽しそうにイキイキとお話しをされる姿に私自身何度も心を打たれた。今まで、支援と聞くと身体を張った作業をするイメージがあった。しかし、しゃんしゃんの活動に参加した事で支援とは相手の話に耳を傾け心を寄り添うことなど身近で些細な思いやりなのだと知る事が出来た。参加者の方々は、このように会話や特技などを披露して、自分自身を表現する事が生きがいづくりに繋がっている。

また、学生も同じくしゃんしゃんの企画と運営をする中で、時には課題に衝突して悩み葛藤しながら、新しい自分の発見や可能性を広げる為に挑戦し続けている。大学での学びを社会で実践出来る経験は、計画性や実行力、連携して活動する上での報告・連絡・相談の重要さなどを実体験として学び、卒業後に社会の一員として生きる為に必要な能力を養う事が出来ている。このようにしゃんしゃんは、一人ひとりが自分自身と他者に向き合い自分の存在意義を見つけお互いに自分の道を切り開いていく為の学びと成長に溢れた場所でもあると感じる。

終章 終わりに

1. 今後の課題と展望

日本における少子高齢化の進行により、認知症患者や高齢者を取り巻く環境は更に厳しくなっていくだろう。しかし、そのような時代だからこそしゃんしゃんは地域の人々を繋ぐ居場所として大きな役割を果たしてきた。月 1 回数時間の開催で劇的な変化は見れないかもしれないが、時間を掛けてじっくりゆっくり継続し、参加者や学生共々学びを深めて地域で今本当に必要とされているニーズに気づき答える為に活動してきた。効率性を第一に求められる今の時代だからこそ、これからもしゃんしゃんは地域に住む 1 人 1 人に真摯に寄り添い支援の輪を広げ続けていきたい。また、一方でしゃんしゃんを開催する目的と意義を明確に示し学生全員が共通の理解を持つことや認知症の人が来やすい環境作りなど、課題も多く上げられている。しゃんしゃんが地域で果たす役割の方向性を明確にし、それらを学生が共通の達成課題として捉え活動していく事が求められている。これまでは、カフェの運営で手一杯な状態であったがこれからは認知症カフェの在り方を追求していく必要がある。しゃんしゃんは、これまで常連の参加者など地域住民の方々に周知され、交流が生まれる居場所として浸透されているが、それから一段上を行く認知症カフェの役割を果たすしゃんしゃんとして進歩していきたい。その為には、学生が認知症の理解を前提に置き当事者の気持ちに立って企画と運営をしていく姿勢が求められていくと思う。これからのしゃんしゃんも地域の人と人を繋ぐ場として更に飛躍して欲しいと願う。

今回、アクティブラーニングの活動総括を目的に書いた地域学研究の論文に協力してくださった地域の皆様、地域にある福祉団体の関係者の皆様、趙ゼミ履修学生、ご指導くださった趙先生には深く感謝を申しあげる。2 年間のアクティブラーニングを総括し書き終えた事は自分自身の自信に繋がった。大学を卒業後も、この授業での実践的な学びを活かし地域を支える存在として自分に出来る事を探し続け躍進していきたい。

註

1) 「厚生労働省」https://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/2r9852000002j8dh-att/2r9852000002j8ey.pdf 2018 年 10 月 12 日取得

2) 「厚生労働省」https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000076236.html　2108 年 10 月 12 日取得

参考文献

・武地 一 『ようこそ、認知症カフェへ―未来をつくる地域包括ケアのかたち』　株式会社ミネルヴァ書房 2017 年

・武地 一『認知症カフェハンドブック』株式会社クリエイツかもがわ 2015 年

・新発田市『新発田市高齢者保健福祉計画 第 7 期介護保険事業計画』新発田市 高齢福祉課　2018 年 3 月策定 2018 年 4 月発行

・『認知症カフェの活用“認とも”はじめの一歩事例集』社会福祉法人東北福祉会　認知症介護研究・研修仙台センター 2017 年 3 月発行

・厚生労働省『認知症施策推進 5 か年計画（オレンジプラン）』(https://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/2r9852000002j8dh-att/2r9852000002j8ey.pdf)　2018 年 10 月 18 日取得

・厚生労働省 HP（https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000076236.html）　2018 年 10 月 18 日取得

別紙１　2018 年度版 新発田市認知症カフェ案内冊子（2018 年 11 月現在）

2018年度版

新発田市

認知症カフェのご案内

お茶やお菓子を囲みながら、認知症についての相談や参加者同士の交流、楽しいイベントなどが行えます。認知症の方や家族、認知症について知りたい方など、どなたでもお気軽にご参加ください♪

～カフェコヘル～

「　　」

【開催日時】毎月第４月曜日
14:00～15:30

【場所】コヘル(新発田市厚保 424-1)

【参加費】無料
（飲み物・お菓子セット 500 円で用意しています。）

【お問い合わせ】
新発田東地域包括支援センター
TEL 0254-31-2001
新発田南地域包括支援センター
TEL 0254-24-1111

～カフェ二王子～

「　　」

【開催日時】不定期

【場所】新発田市虎丸 452
介護老人保健施設二王子 施設内

【参加費】100 円

【お問い合わせ】TEL0254-25-3737
担当 佐藤

協力：新発田地域の認知症カフェの皆様
新発田市
新発田南地域包括支援センター
発行：敬和学園大学 越ゼミ
〒957-8585
新潟県新発田市富塚 1270
TEL 0254-26-3636
FAX 0254-26-3646

～オレンジカフェ「よゃらっしぇ」～

「認知症の相談など、お気軽にご参加ください！」

【開催日時】月１回　13:30～15:30

【場所】生涯学習センター 多目的ホール
（〒957-0053 中央町 5-8-47）

【参加費】100 円（飲み物・お菓子代）

【お問い合わせ】
新発田市高齢福祉課　地域ケア推進係
TEL 0254-22-3030
0254-28-9200?

～「まなびや」～

「新発田市で２・３番目に出来た認知症カフェ。認知症についての相談を広く知ってもらうため、講演形式で行っています。」

【開催日時】毎月第４週 金曜日　14:00～

【場所】くるまの地域交流スペース
（〒957-0347 大友 17-1）

【参加費】100 円（コーヒー・クッキー代）

【お問い合わせ】
特別養護老人ホーム　くるまの
小規模多機能型居宅介護？
TEL 0254-28-7382

～地域カフェ「よらいす」～

「人と人とのつながりを大切に。
どうぞ寄っていってください。」

【開催日時】毎月 第４木曜日
13:30～15:00
【場所】グループホーム加治川の里
（〒959-2426 向中条 2843-1）
【参加費】無料
【お問い合わせ】
グループホーム　加治川の里
TEL 0254-21-3470

～よりそいカフェ「しゃんしゃん」～

「敬和学園大学の学生が中心に運営しています。」

【開催日時】不定期（土曜日）13:00～16:00
【場所】まちカフェ・りんく
（〒957-0055 飯豊町 1-3-21）
【参加費】 無料（有料メニュー有り）
【お問い合わせ】
新発田南地域包括支援センター
TEL 0254-24-1111

～カフェ「笹川屋」～

「心も温まる、手作りの料理と一緒にどうぞ。」

【開催日時】毎月第１日曜日
10:00～15:00
【場所】〒957-0056 大栄町 7-2-6
【参加費】200 円（お昼代 500 円）
【お問い合わせ】清野 敬子さん
TEL 090-2215-0253

～「プチ・オレンジカフェ」～

「イベントの内容をスタッフと参加者が
一緒に考えるカフェです。」

【開催日時】毎月１回　不定期
13:30～15:15
【場所】新発田市総合健康福祉センター
いきいき館１階 市民ふれあい広場
（〒957-0052 大手町 1-14-13）
【参加費】100 円（飲み物・お菓子代）
【お問い合わせ】
新発田中央地域包括支援センター
TEL 0254-26-2400

～「ぢりめきカフェ」～

「気軽に集まれる〝くつろぎ〟の場所。」

【開催日時】月１回
（第３日曜日もしくは第４日曜日）
【場所】山の口公会堂
（〒957-0082 佐々木 2610）
【参加費】無料
【お問い合わせ】グループホーム地利目木
TEL 0254-32-6100
ショートステイぢりめき
TEL 0254-32-6330

～「ぽかぽか Cafe とようら」～

「お茶やお菓子を食べながら、
お話をして過ごしましょう。」

【開催日時】毎月第３日曜日
14:00～16:00
【場所】特別養護老人ホーム豊浦愛宕の園
（〒959-2311 荒町甲 1611-13）
【参加費】200 円
【お問い合わせ】
特別養護老人ホーム豊浦愛宕の園
TEL 0254-20-2211

別紙２

2018.11.17

「よりそいカフェしゃんしゃん　アンケートのお願い」

日頃のよりそいカフェしゃんしゃんにご参加して頂きましてありがとうございます。

私たちは、敬和学園大学の地域学研究という授業で２年間の「よりそいカフェしゃんしゃん」活動の総括をすることになり、「よりそいカフェしゃんしゃんが地域にもたらした影響や役割」などに関するテーマでまとめを行っています。

今後のしゃんしゃん活動の発展を目指して、これまでしゃんしゃんに参加された方々や認知症サポート関係専門職の方々の生の声もお聞きしたく、今回アンケートを実施することになりました。答えられる範囲で構いませんのでご協力を宜しくお願い致します。

※記入の仕方：以下の質問に対して答えを選択できるアンケートに関しては該当する番号に○をおつけ下さい。また、質問内容が（　）になっているところは文書でお答えください。

質問 1. ご自身の性別を教えて下さい。　①男　②女

質問 2. ご自身の年齢を教えて下さい。
①20 代　②30 代　③40 代　④50 代　⑤60 代　⑥70 代
⑦80 代　⑧90 代　⑨その他（　　）

質問 3. よりそいカフェしゃんしゃんについて、知ったきっかけを教えて下さい。（複数回答可）
① 商店街関係者　②南包括支援センターの関係者　③新発田市内の福祉施設
④よりそいカフェしゃんしゃんチラシ　⑤地域の回覧板　⑥新発田市役所の広報誌　⑦その他（　　）

質問 4. 今のお住まい（地域）について教えて下さい。
①諏訪町　②本町　③豊町　④新発田市内（　　）
⑤新発田市外（　　）

質問 5.「しゃんしゃん」カフェへの参加頻度を教えて下さい。
①毎月　②2～3 ヶ月に 1 回　③4～5 ヶ月に 1 回　④6 ヶ月以上
⑤初めて　⑥その他（　　）

質問 6.「しゃんしゃん」に参加する主な理由や目的について教えて下さい。（複数回答可）
①学生との交流　②参加者との交流　③くつろぎに　④イベントの参加
⑤専門職に相談　⑥その他(　　)

質問 7. これまでのしゃんしゃんにおいて学生たちや専門職の方々、他の参加者の方々と交流してみていかがでしたか。良かったことや気になったことなど自由にお書きください。

（　　）

質問 8. これまでのしゃんしゃんの学生企画（メニュー、イベント（ゲームや歌）、飾りなど）の内容について感想をお聞かせ下さい。良かった点、改善点など。

（　　）

質問 9. これまでのしゃんしゃん活動に参加されて、ご自身が何か得られたものがありましたら自由にお書きください。

（　　）

質問 10. 普段のしゃんしゃん活動に参加している学生たちの姿勢や態度などについて日頃感じたことなどについてご自由にお聞かせ下さい。良かった点、改善点など。

（　　）

質問 11. ご自身にとって「よりそいカフェしゃんしゃん」を一言で言うならば何と表現しますか。

自分にとってしゃんしゃんは＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿である。

質問 12. 以上ですべての質問は終わりですが、最後に今後のしゃんしゃん活動に関するご意見など自由にお書き下さい。

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました！
このアンケートの結果は、敬和学園大学地域学研究の総括をまとめる為の貴重な資料として活用させて頂き、また、今後のよりそいカフェしゃんしゃんの更なる発展のために使わせて頂きます。その他の目的では一切使いません。

敬和学園大学　英語文化コミュニケーション学科 4 年　川崎千夏
共生社会学科 4 年　佐藤菜子・有時茜

別紙３

2018.11.22

「よりそいカフェしゃんしゃん　アンケートのお願い」

私は、敬和学園大学の地域学研究という授業で２年間の「よりそいカフェしゃんしゃん」活動の総括をすることになり、「よりそいカフェしゃんしゃんが地域にもたらした影響や役割」などに関するテーマでまとめを行っています。

今後のしゃんしゃん活動の発展を目指して、しゃんしゃんの企画・運営を行っている現役学生の生の声もお聞きしたく、今回アンケートを実施することになりました。答えられる範囲で構いませんのでご協力を宜しくお願い致します。

※記入の仕方：以下の質問に対して答えを選択できるアンケートに関しては該当する番号に〇をおつけ下さい。また、質問内容が（　）になっているところは文書でお答えください。

質問１．ご自身の性別を教えて下さい。　①男　②女

質問２．ご自身の学年を教えて下さい。
①1 年生　②2 年生　③3 年生　④4 年生

質問３．越ゼミに入ったきっかけ
（　　）

質問４．しゃんしゃんの企画・運営をする中で得ることが出来た学びはありますか？
（　　）

質問５．しゃんしゃんの企画・運営をする中で課題と感じていることはありますか？
（　　）

質問６．参加者・専門職の方々と交流してみての感想
（　　）

質問７．ご自身にとって「よりそいカフェしゃんしゃん」を一言で言うならば何と表現しますか。
自分にとってしゃんしゃんは＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿である。

質問８．以上ですべての質問は終わりですが、最後に今後のしゃんしゃん活動に関するご意見など自由にお書き下さい。

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました！
このアンケートの結果は、敬和学園大学地域学研究の総括をまとめる為の貴重な資料として活用させて頂き、また、今後のよりそいカフェしゃんしゃんの更なる発展のために使わせて頂きます。その他の目的では一切使いません。

敬和学園大学　英語文化コミュニケーション学科４年　川崎千夏